

**「深大寺元町特別緑地保全地区」
保全管理計画の策定に向けたオープンハウス**



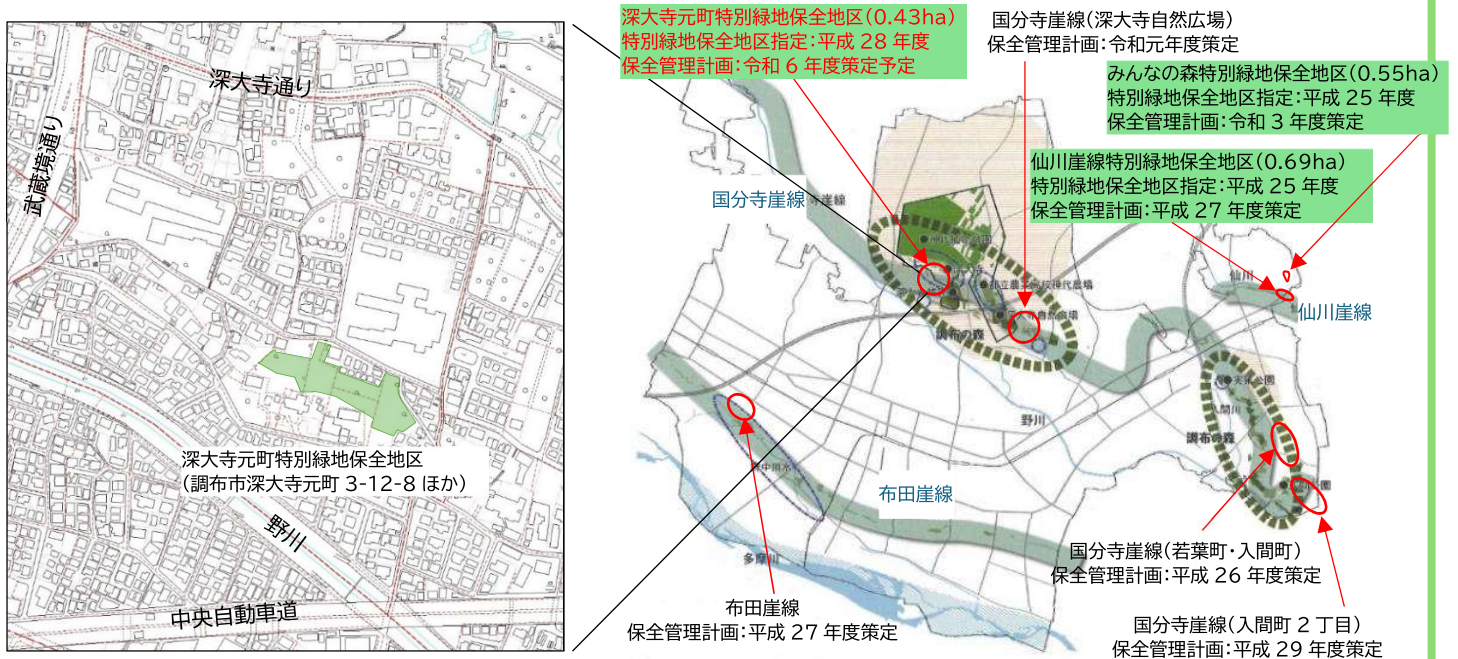
**令和6年 10月 20日(日)13:30~16:30
22日(火)17:30~20:30**

調布市 環境部 緑と公園課

1-1. 深大寺元町特別緑地保全地区について

深大寺元町特別緑地保全地区は、武蔵野の雑木林の面影を残し、崖線緑地として緑豊かで良好な景観を形成するとともに、野生生物の生育・生息環境としても貴重な場所です。

市は、平成29年に特別緑地保全地区の指定を行い、次世代へと引き継ぐべき貴重な緑地として、その保全と活用を図ることを目的に保全管理計画を策定することとしています。



<各崖線緑地と保全管理計画策定状況>

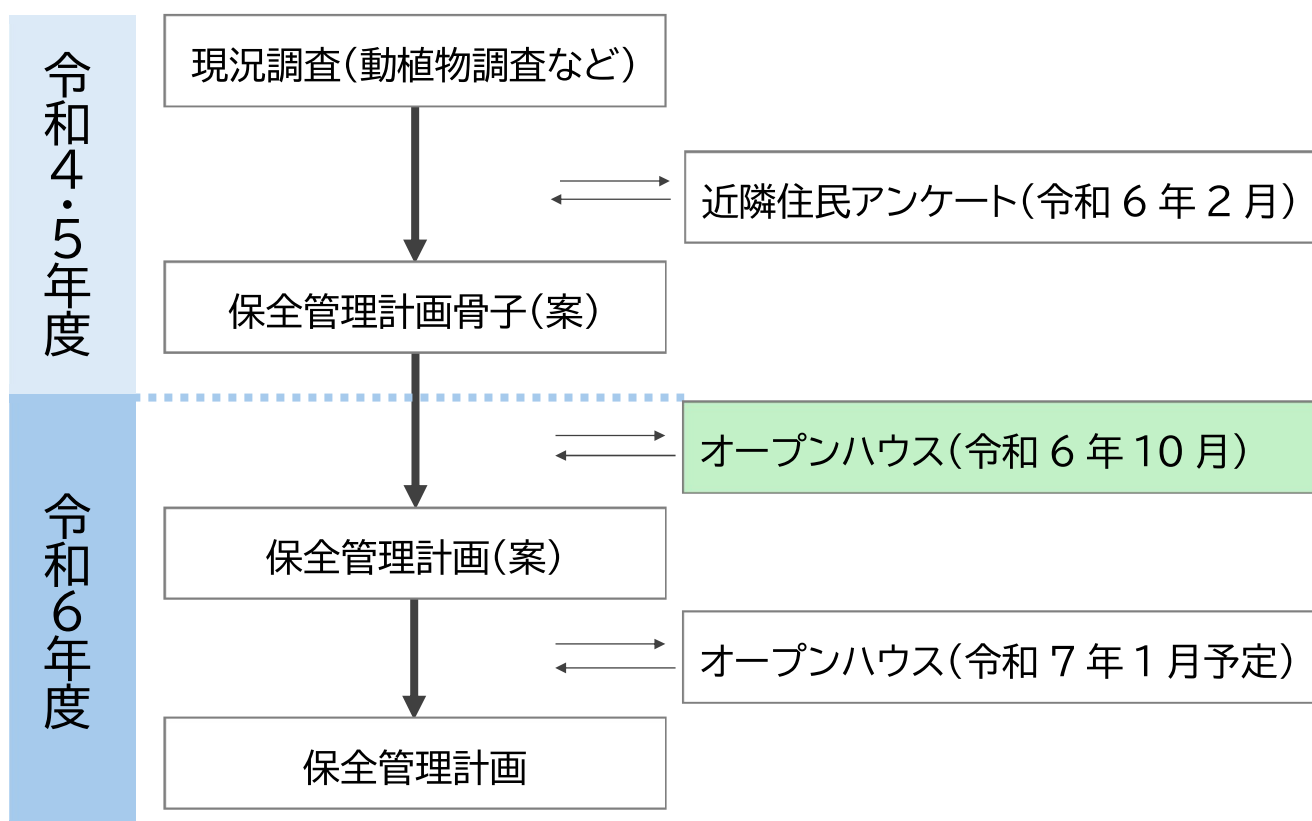
「特別緑地保全地区制度」

都市緑地法に基づき、豊かな緑を未来へ継承するため、都市における良好な自然的環境を形成している緑地において、建築行為など一定の行為を制限し現状を保全する制度です。

都市計画法における地域地区として計画決定を行います。

1-2. 保全管理計画策定までの流れ

令和5年度に作成した保全管理計画骨子(案)を基に、令和6年度はオープンハウスを2回実施し、皆さまからのご意見・ご要望を反映した保全管理計画を令和7年3月に策定・公表する予定です。



このたび、皆さまの意向をいただきながら
計画づくりを進めていくため、オープンハウス
形式での意見交換会を開催します。

2-1. 地区の周辺状況

この地区は市の北部に位置し、国分寺崖線に沿って残された緑地や深大寺の社寺林など、市の特徴的な緑が集約されています。



<対象地と周辺の緑の状況>

「国分寺崖線」

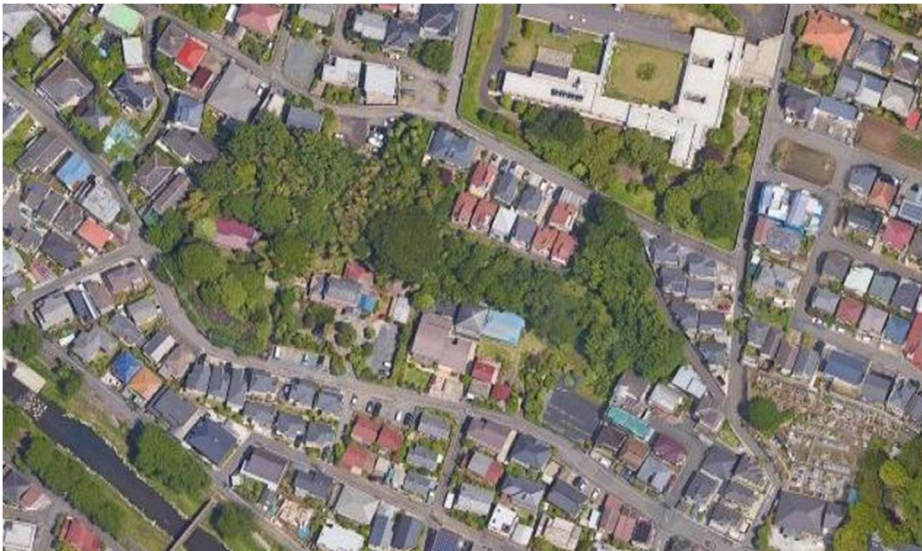
多摩川が10万年以上かけて武蔵野台地を削り取ってできた段丘で斜面地の雑木林は、貴重な自然風景や生き物の住処になっています。



国分寺崖線の断面図（イメージ）

2-2. 地区の地形

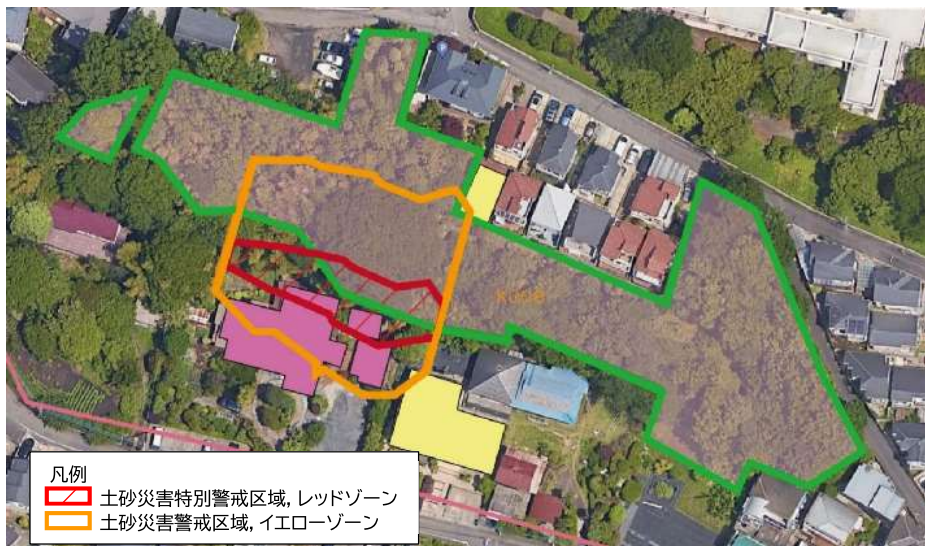
この地区は周囲を住宅地と道路に囲まれた緑地で、面積は約0.43ha、地形の高低差は15m程度となっています。また、地区の北側は平坦、南側は傾斜地となっています。



南側の傾斜地（イメージ）

「土砂災害特別警戒区域等との関連について」

深大寺元町特別緑地保全地区の一部が土砂災害特別警戒区域等に指定されています。今年度に策定する予定の保全管理計画では将来的に実施する土砂災害対策を見込んだうえで検討を行っていきます。



2-3. 地区の植生及び動物①

◇主な植生について

- ・「クヌギ・コナラ群落」「シラカシ群落」「スギ・ヒノキ・サワラ群落」「モウソウチク林」に分かれています。
- ⇒東部の「クヌギ・コナラ群落」はクヌギ, コナラなどからなる, 落葉広葉樹林。
- ⇒中央部の「シラカシ群落」はシラカシやケヤキなどの混合樹林で, 下層部をシュロやアズマネザサなどが繁茂。
- ⇒中央部の「スギ・ヒノキ・サワラ群落」はスギ・ヒノキ・サワラと樹齢の高い大木化したケヤキ, シラカシなどの混合樹林。
- ⇒西側の「モウソウチク林」はモウソウチクが繁茂。
- ・キンラン, ギンランなどの重要種が多く生育。

◇貴重な動物について

- ・ニホンカナヘビは, 春から秋にかけて, 地区内で確認。
- ・ニホンヤモリは, 秋に地区内で確認。
- ※ニホンカナヘビ及びニホンヤモリは, 東京都の本土部で絶滅のおそれのある野生生物について解説した「レッドデータブック」に掲載されている種です。

◇昆虫について

- ・樹林性の昆虫類が多いことが地区の特徴です。クヌギが多い場所では樹液に集まる昆虫類が見られます。(コクワガタ, ヤマトタマムシ等)
- ・暗い樹林内では, 林床の草地があまり育たないことから, バッタなどの草地性の昆虫類は少ない傾向にあります。



キンラン



ギンラン



ニホンカナヘビ

対象地で見られる重要種 (参考写真)

2-3. 地区の植生及び動物②



3. アンケート調査結果(概要)

保全管理計画骨子(案)を作成するにあたり、近隣住民の皆さまからご意見・ご要望を伺うために、令和6年2月にアンケートを実施しました。

◇主な質問とご意見

(質問1)この地区の緑を守り保全・活用していくことについて
⇒95%以上が「賛成」と回答

(質問2)この地区の保全や活用で市に期待することについて
⇒緑地内の雑木林の継承
⇒緑地内の貴重な野生動物の生育環境の確保
⇒緑地の利活用

(質問3)この地区で将来的に大切にしていきたいものは何ですか。
⇒「シラカシ群落」「クヌギ・コナラ群落」「貴重な動植物」
「モウソウチク林」

(質問4)この地区の樹木を計画的に更新(伐採や補植など)することについて、どのように考えますか。
⇒80%以上が「計画的に更新した方が良い」と回答

(質問5)この地区は現在閉鎖管理していますが、今後、一部開放エリアを設けることについて、どのように考えますか。
⇒約60%が「開放エリアを設けた方が良い」・約15%が「閉鎖管理のままで良い」が・約18%が「どちらとも言えない」と回答

その他多くの意見をいただきました。

アンケート結果については机上に一覧がありますのでご確認ください。

4. 基本方針(案)

この地区の地形・植生やアンケート結果等を参考に基本方針(案)を作成しました。

◇基本方針(案)

- ・深大寺に残された貴重な自然環境として計画的な更新のもと保全する。
- ・武蔵野の雑木林を保全継承するため、クヌギやコナラからなる樹林形成を目指す。
- ・動植物保全, 近隣影響, 安全確保に配慮しながら, 人と自然が共存できる活用を進める。
- ・調布らしさを継承する崖線の存在を生かした景観形成を図る。

基本方針(案)やこの後のパネルのゾーニング計画や管理内容について, 皆さまのご意見を是非この機会にお寄せください。

また, 質問等がございましたら近くの係の者までお声かけください。

5-1. ゾーニング計画(案)

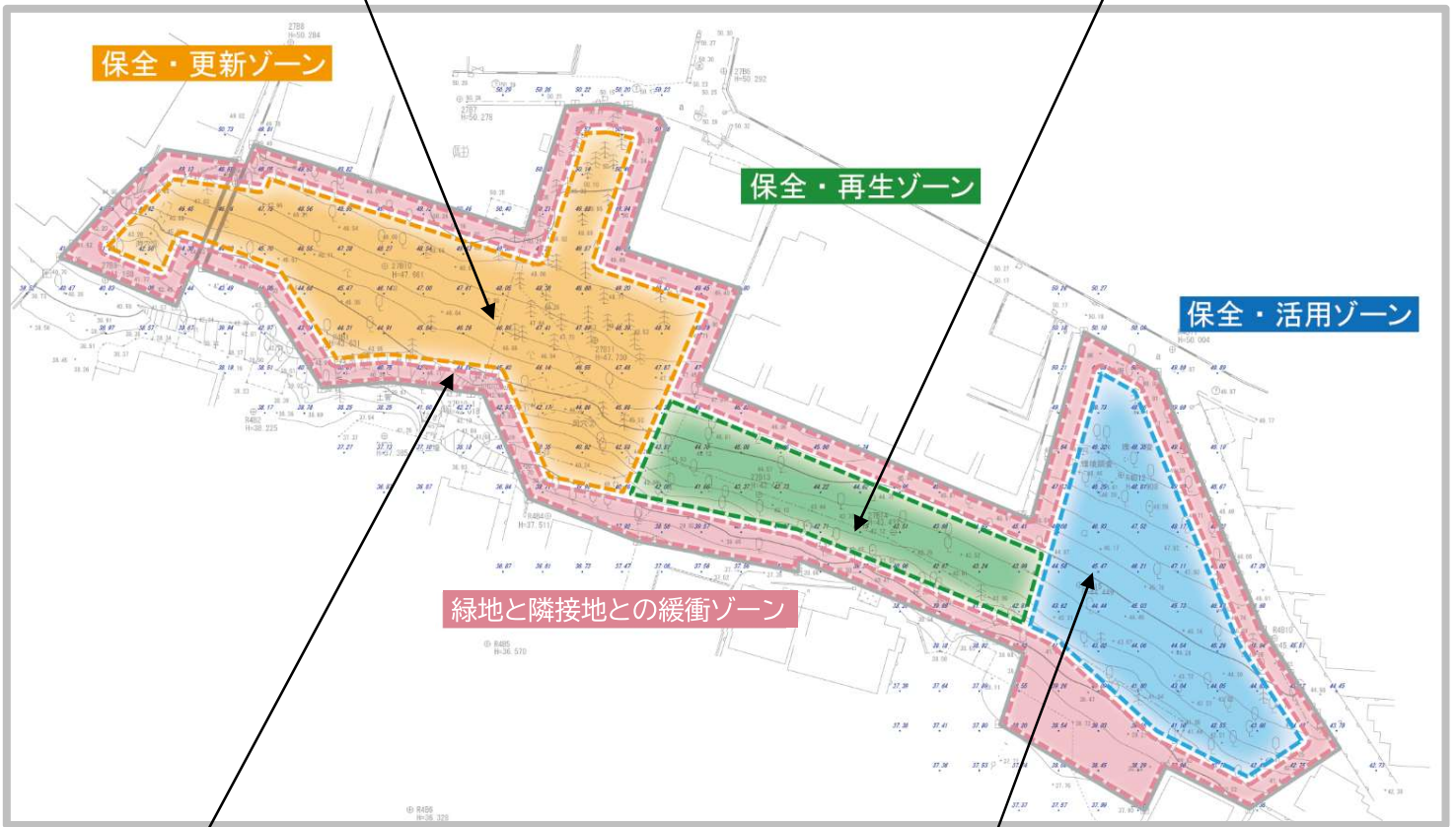
この地区を4つのゾーンに分け, それぞれに保全管理の目標(案)を定めました。

保全・更新ゾーン

モウソウチク林の拡大を抑制し, シラカシやケヤキなどの大木を生育状況に合わせて保全する。
将来的には補植などを行いながらクヌギやコナラなどによる**明るい雑木林への更新**を進める。

保全・再生ゾーン

シラカシ群落, ケヤキの大木を生育状況に合わせて保全, シュロや林床のアズマネザサなどの草を適正管理することで**高中低木層からなる自然性豊かな植生を保全**する。



緑地と隣接地との緩衝ゾーン

越境枝や傾斜地など, 隣接地への影響を考慮し, せん定, 伐採や補植などによる**隣接地への影響を緩和**するゾーン。

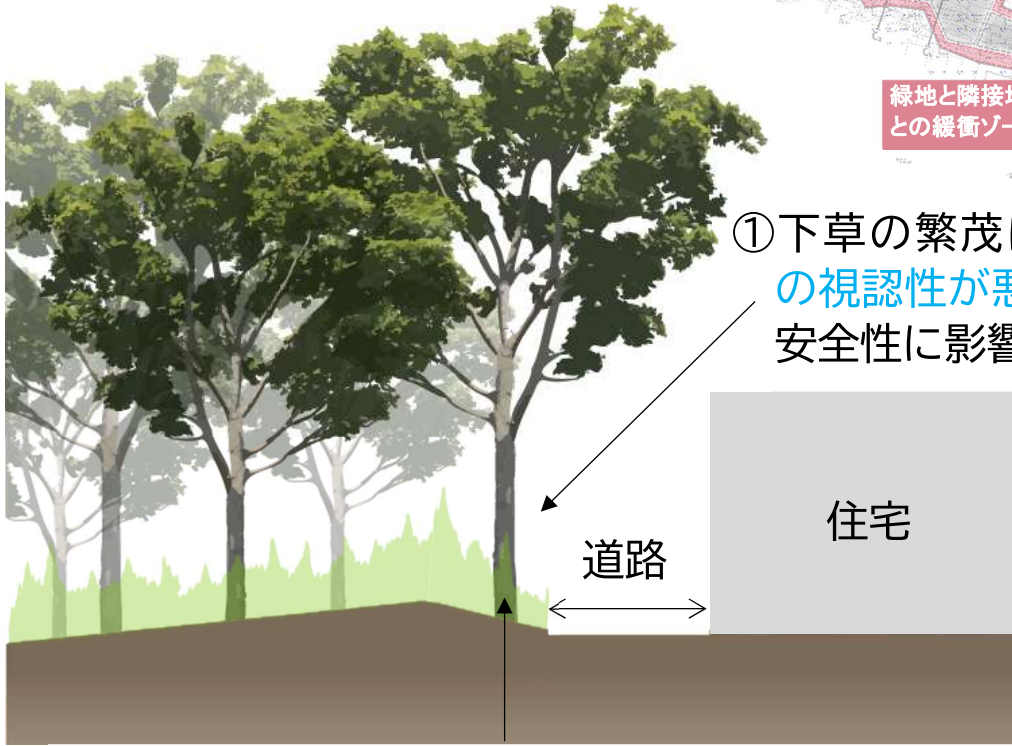
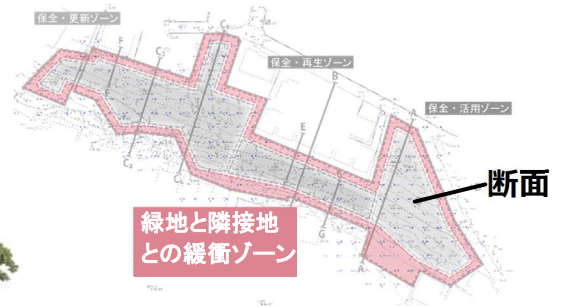
保全・活用ゾーン

クヌギ, コナラの適正管理を行うとともに, 平坦場所の一部を**開放し利用を図る**ゾーン。眺望, 見通しの良い明るく開放的な樹林環境を形成する。

5-2. 緑地と隣接地との緩衝ゾーン(道路沿い)

【現況と課題】

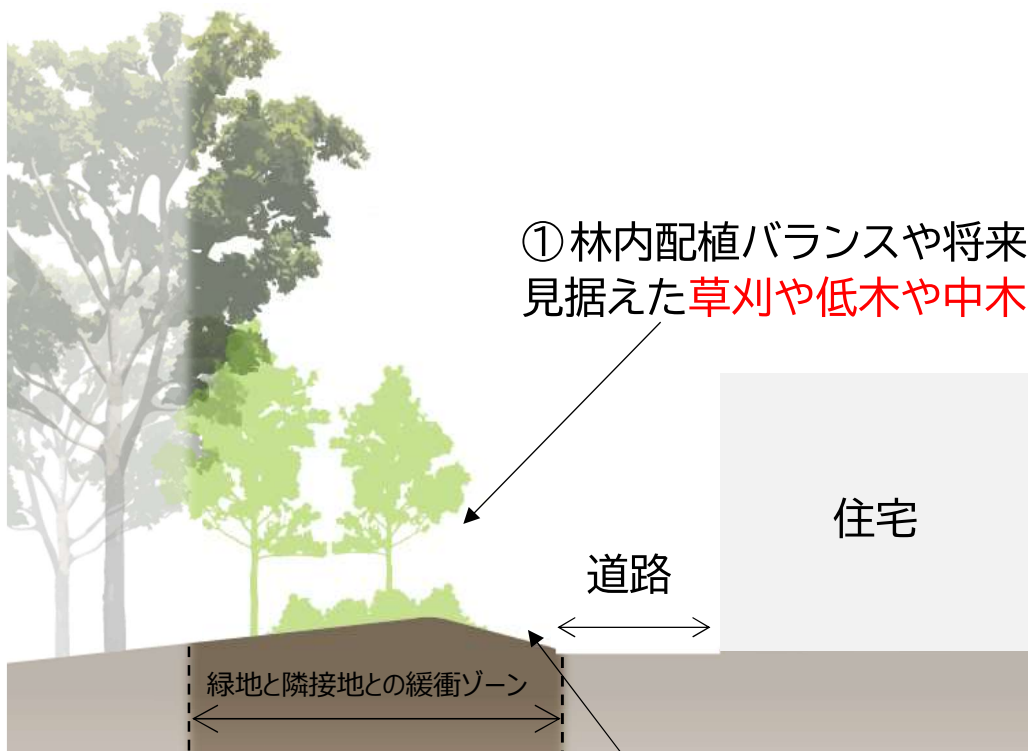
住宅地際に高木や下草が繁茂している。



①下草の繁茂により地区内の視認性が悪く、防犯性や安全性に影響が出ている。

②敷地境界に位置する大木からの落ち葉や落ち枝などにより、道路や住宅に影響が出ている。

【管理内容(案)】



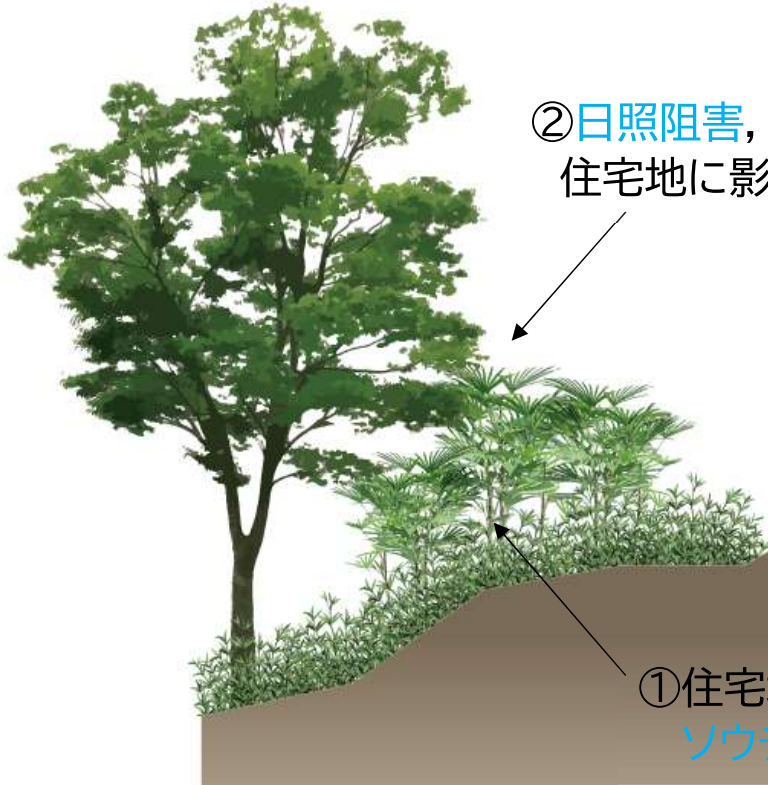
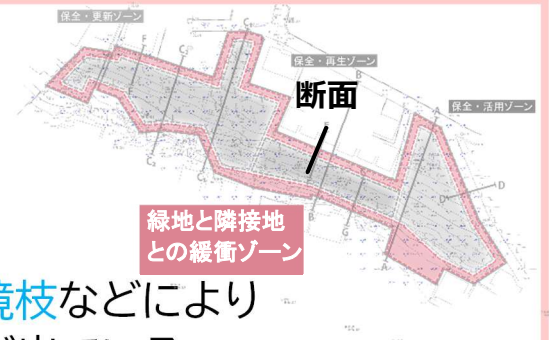
①林内配植バランスや将来生長を見据えた草刈や低木や中木などの補植。

②大木の剪定管理と必要に応じた伐採。

5-2. 緑地と隣接地との緩衝ゾーン(住宅地沿い)

【現況と課題】

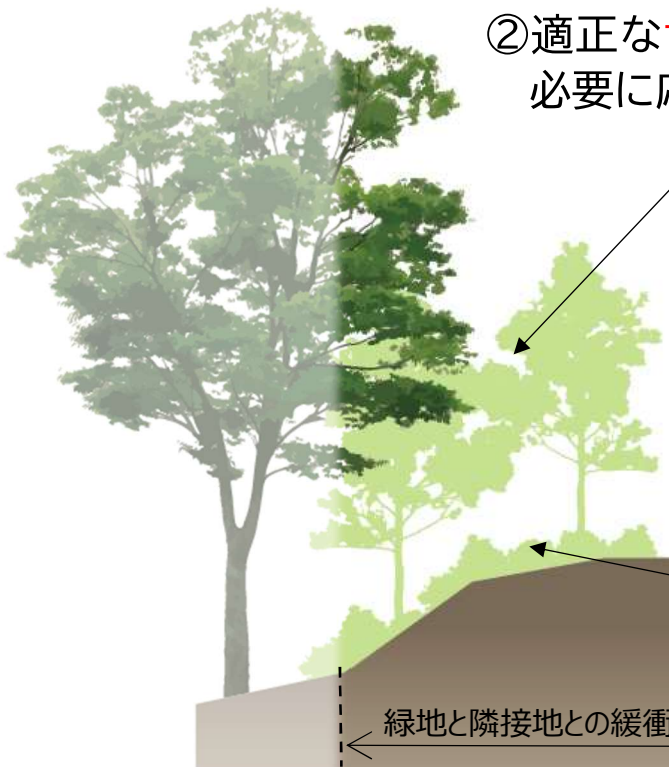
住宅地際に高木や下草が繁茂している。



②日照阻害, 越境枝などにより住宅地に影響が出ている。

①住宅地際に高茎草本, シュロ, モウソウチクなどが密植繁茂している。

【管理内容(案)】



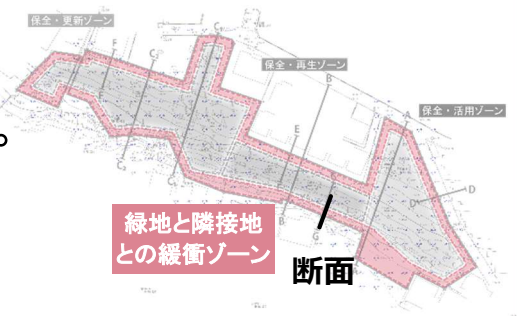
②適正なせん定伐採・密度管理, 必要に応じた補植。

①刈り取りなどによる高茎草本, シュロなどの密度管理・拡大抑制。

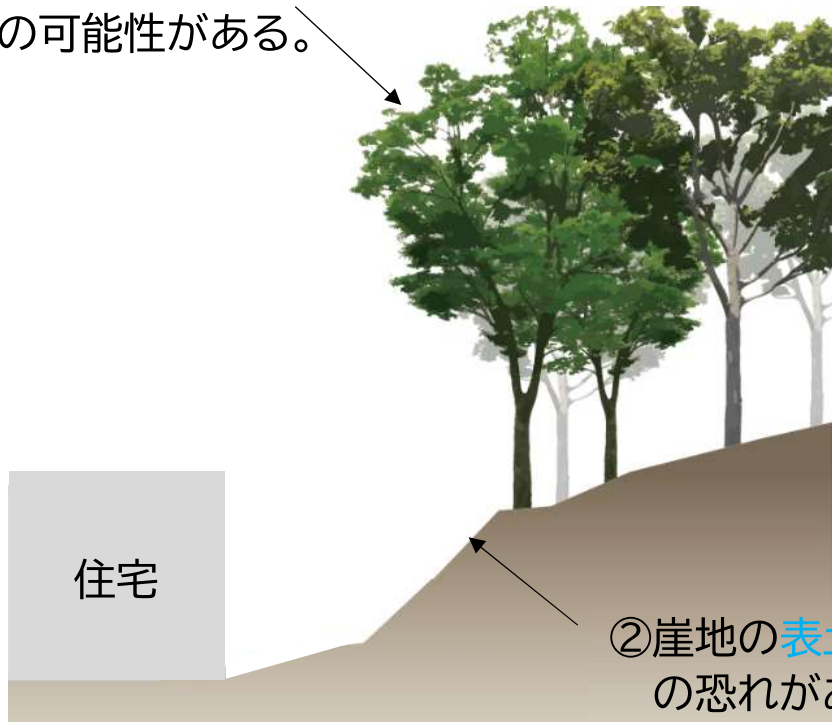
5-2. 緑地と隣接地との緩衝ゾーン(急傾斜地)

【現況と課題】

住宅地際の傾斜地にある樹木が高木化している。



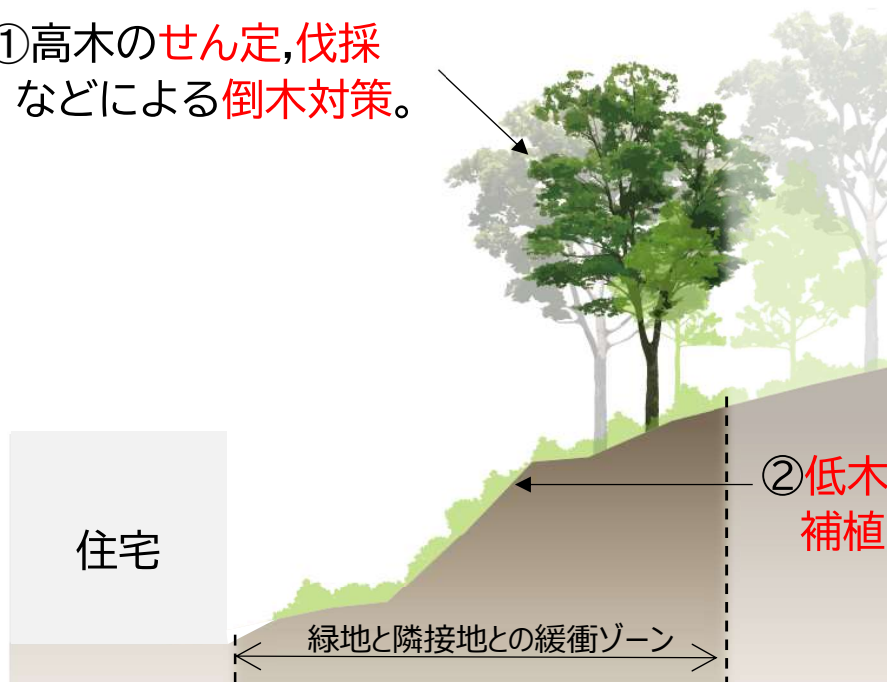
①高木の倒木などの可能性がある。



②崖地の表土の流出の恐れがある。

【管理内容(案)】

①高木のせん定, 伐採などによる倒木対策。



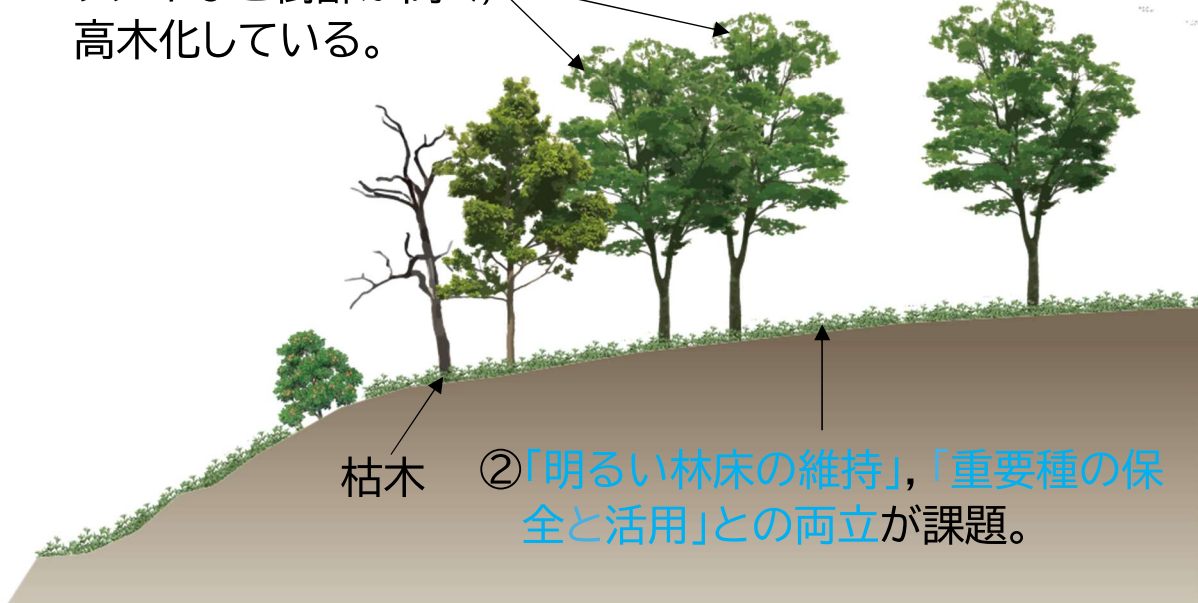
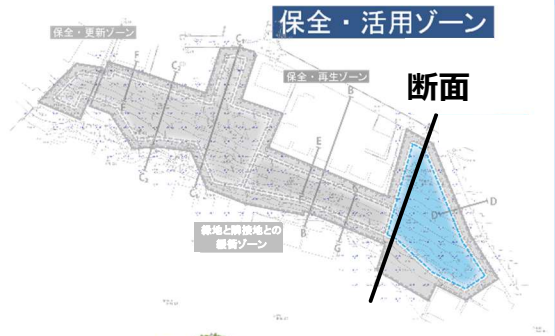
②低木や地被類などの補植による表土の保護。

5-3. 保全・活用ゾーン

【現況と課題】

クヌギ・コナラを主体とした落葉広葉樹林

- ① 樹林更新が行われておらず、クヌギなど樹齢が高く、高木化している。



【管理内容(案)】

- ① 枯木,老木等を伐採し,クヌギ・コナラなどを補植し樹林更新する。



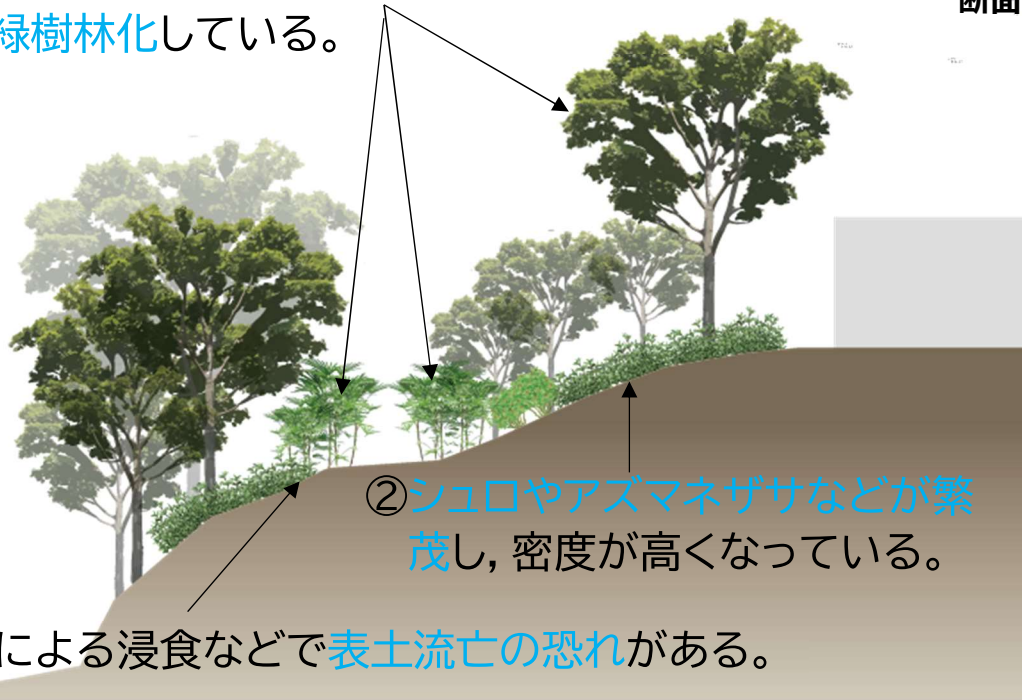
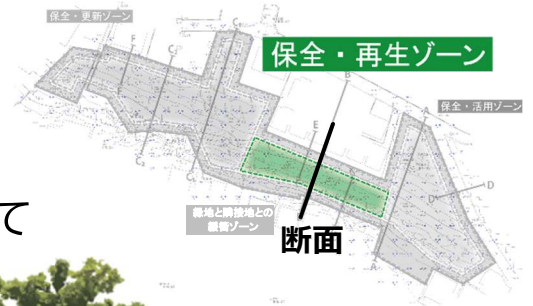
保全・活用ゾーン

5-4. 保全・再生ゾーン

【現況と課題】

シラカシ、ケヤキなどの大木の混合樹林

- ①シラカシ、ケヤキなどの樹木が高木化，中低木層にヤブツバキ，アオキが生育して常緑樹林化している。

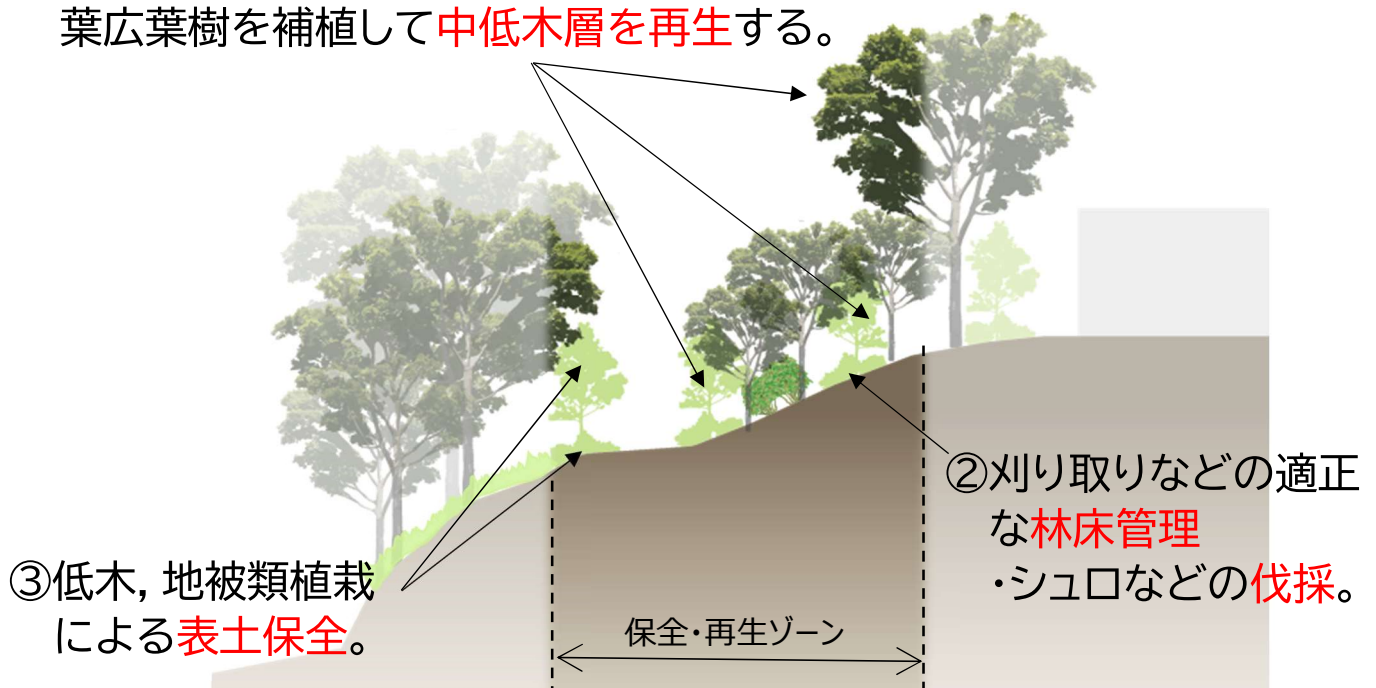


- ②シュロやアズマネザサなどが繁茂し，密度が高くなっている。

- ③雨による浸食などで表土流亡の恐れがある。

【管理内容(案)】

- ①生育状況に合わせながら大木を保全し，落葉広葉樹を補植して中低木層を再生する。



- ②刈り取りなどの適正な林床管理
・シュロなどの伐採。

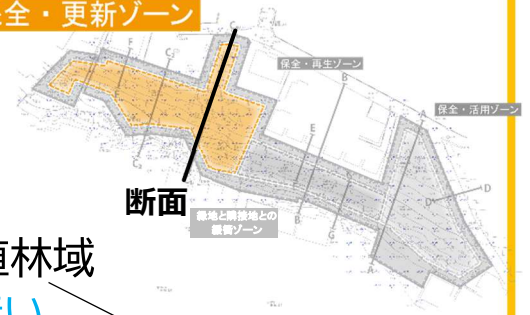
- ③低木，地被類植栽による表土保全。

5-5. 保全・更新ゾーン1

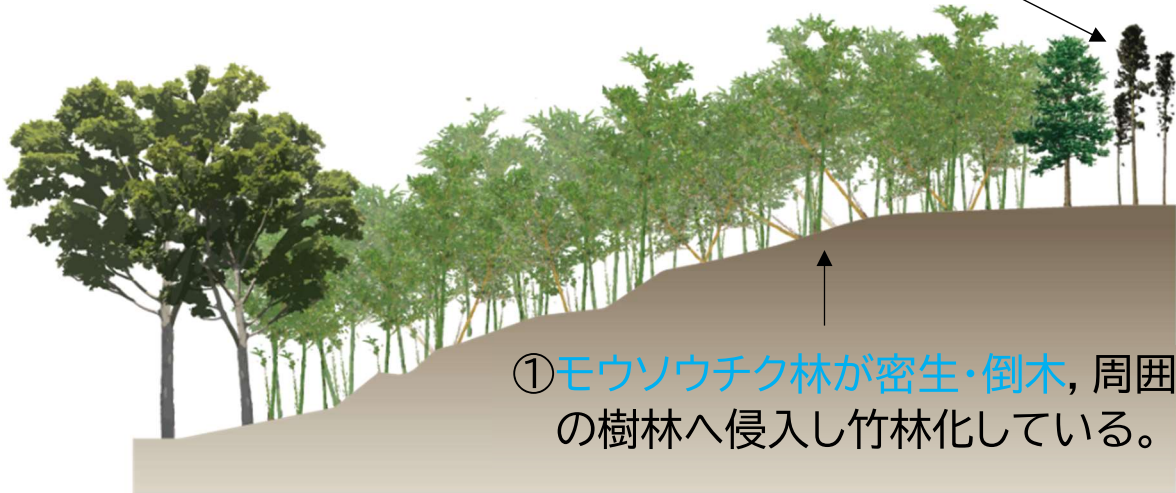
【現況と課題】

モウソウチクとケヤキ・シラカシ
・スギなどの混合樹林

保全・更新ゾーン



②スギ, ヒノキなどの針葉樹の植林域
は, 樹林密度が高く, 林内が暗い。

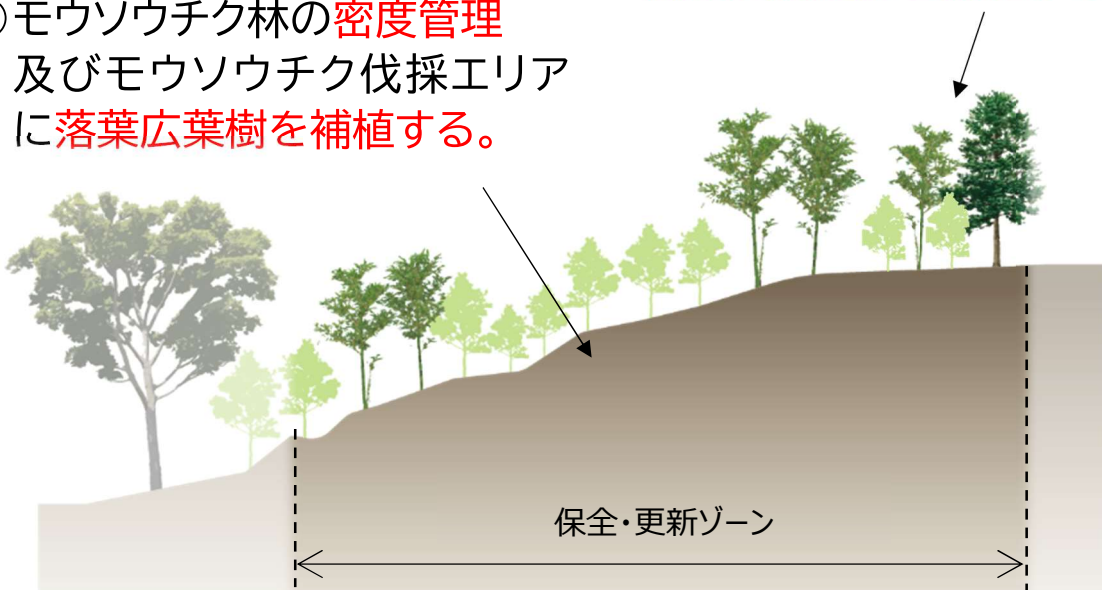


①モウソウチク林が密生・倒木, 周囲
の樹林へ侵入し竹林化している。

【管理内容(案)】

①モウソウチク林の密度管理
及びモウソウチク伐採エリア
に落葉広葉樹を補植する。

②スギ・ヒノキ・サワラ群落の密度管理
及び落葉広葉樹林を補植する。



5-5. 保全・更新ゾーン2

【現況と課題】

モウソウチクとケヤキなどの混合樹林

保全・更新ゾーン



- ②モウソウチク林が点在する
ケヤキなどを圧迫している。



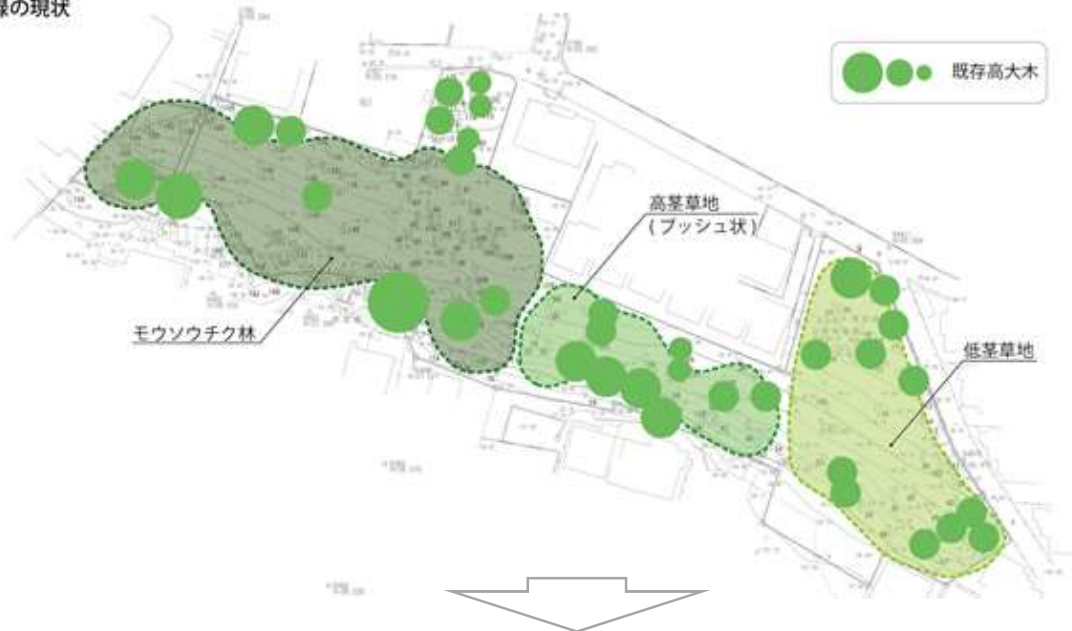
【管理内容(案)】



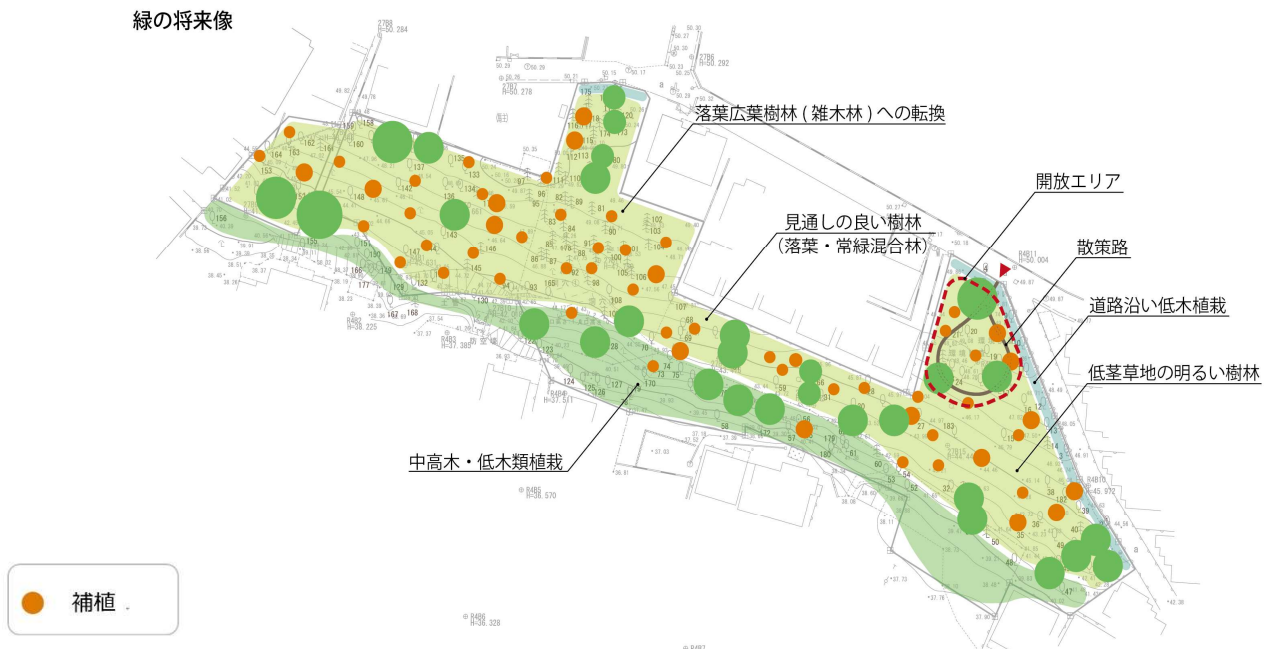
6. 緑の将来像(案)

各ゾーンの管理内容を踏まえ、この地区の緑の将来像を作成しました。

緑の現状



緑の将来像



説明は、以上となります。

アンケートをお配りしますので、ご協力のほど、お願いいたします。

本日は、ご来場いただきまして、ありがとうございました。